

日本酒で乾杯推進会議・第12回総会・フォーラム&懇親パーティ

秋の夜空に、全国一斉乾杯の大歓声



国内外4万7千人が同時乾杯。日本酒再生への祈りが一つに

10月1日・日本酒の日の夜、全国で日本酒で乾杯の大歓声が湧きおこった!「日本酒で乾杯推進会議」の第12回総会とフォーラム&懇親パーティが、この日、東京元赤坂の明治記念館で開催され、19時30分を期して、およそ4万7千人の人々が国内外で一斉乾杯。会場には佐賀県や兵庫県、さらにはシンガポールからも乾杯のネット映像が中継されるなど、日本酒と日本文化のルネサンスを祈る心が、海を越えてひとつに結ばれた一夜となりました。





話題をさらった「全国一斉乾杯」。今後の運動の新たな活力に

日本酒からの手紙

『ニッポン人には日本が足りない、と言われて
います。』

「和服をさりげなく着こなしてみたい」

「ほどよく美しい言葉で語りかけたい」

この国で育まれてきたよき日本文化の数々。
私たちがほんの少し心がけるだけで、まだそ
れが取りもどせそうです。

日本酒を粋に飲んでみたいと思いませんか。

日本酒は、長い歴史の中でしなやかな感性と
すぐれた技術で磨きあげられてきました。

甘くて辛い「妙味の酒」。

特定の料理を選ぶことなく、心身を癒し、ご
縁をつなぎ、和(なごみ)に酔うお酒です。

あらたまった礼講からにぎやかな無礼講に
移るとき、私たちは乾杯します。

「みなさまのご発展とご健勝を祈念し
て・・・」

何に向かって祈るのでしようか。

カミ様？ホトケ様？ご先祖様？

ニッポン人の心の奥底に宿るものとふれあ
うとき、新たな力が生まれるはずですよ。

これからの人生をますます豊かなものにす
るために・・・。

日本酒で乾杯！

★ 会員拡大、乾杯条例制定など着々と成果

日本人なら、日本酒で乾杯！日本酒で乾杯運動は、「乾杯」という行為を通じて、日本文化と日本酒への誇りを取り戻そうという業界一丸のカルチャームーブメント。

平成 16 年 10 月、業界の思いを伝える「日本酒からの手紙」(上)を掲げて運動をスタートしてから丸 11 年。推進母体である「日本酒で乾杯推進会議」、そして各界有識者で結成された中核組織「100 人委員会」(代表=石毛直道 国立民族学博物館名誉教授)を中心とした取組は、

「推進会議」の会員拡大(現在約 3 万 7 千人)、乾杯や日本文化に関する研究、自治体による乾杯条例制定との連携(現在 110 件。日本酒以外も含む)など、着実に成果を積み上げてきました。

★ 国内外 326 カ所で一斉乾杯、ネット中継も大活躍

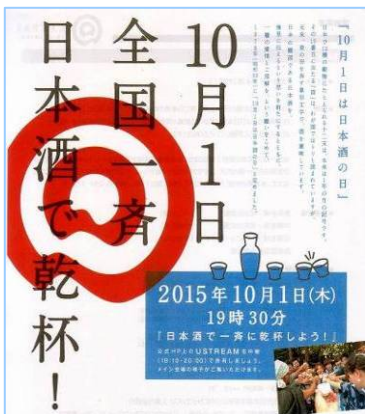
「総会・フォーラム&懇親パーティ」は、運動の現状を確認し、さらなる発展に向けて関係者の結束を固めるために開かれる年に一度のビッグイベント。今回も、『清酒の発見』をテーマにしたパネル討論(フォーラム)や、全国の日本酒をゴージャスな料理と共に楽しんだ懇親パーティなど、

充実のひと時が繰り広げられましたが、中でも話題をさらったのが、「日本酒の日」を祝って行われた全国一斉乾杯の取組。

東京の明治記念館をメイン会場に、国内 267 カ所、海外 6 カ国 59 カ所(シンガポール 51、マレーシア 3、韓国 2、ベトナム、オーストラリア、インド各 1)に結集した 4 万 7 千人もの参加者(公式 HP や SNS での投稿を含む)が、19 時 30 分を期して一斉に「日本酒で乾杯！」したもので、東京会場では、兵庫県(城見台公園)と佐賀県(ホテルニューオータニ佐賀)、更にはシンガポールでの国際親善乾杯の模様をネット中継するなど先端技術も大活躍。東京会場の様子も全世界にネット配信され、今後の運動に新たな活力を与える取組となりました。



乾杯の起源を探った『乾杯の文化史』、日本文化における日本酒の位置づけをまとめた『日本酒と日本文化』も、運動の大きな成果のひとつです。



事前告知の効果もあって、目標の4万人をオーバー

★ 第12回総会 ★ 福井県小浜市に感謝状。フォト・コン表彰も

第12回「日本酒で乾杯推進会議」総会・フォーラム 「清酒の発見」～日本のかたち、日本のこころ～

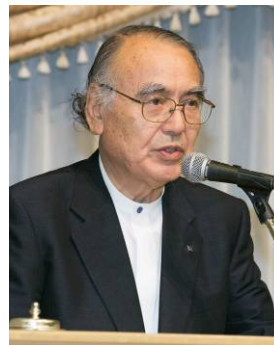


「私たちは日本を愛します。日本文化を愛します。そして日本酒を愛します。『日本に乾杯』。そのはじめに、『日本酒で乾杯』。私たちは、日本文化のルネサンスをめざして、ここに『第12回日本酒で乾杯推進会議』総会の開会を宣言いたします」

アナウンサーの山根基世さんが読み上げる開会宣言に、出席者全員が唱和して、第12回総会の幕が上がりました。



◀ 総会の冒頭、100人委員会の石毛代表が挨拶。
「日本酒は日本文化の中心であり、お屠蘇や三々九度など、日本人の一年、一生にとって重要なもの。日本酒で乾杯することで、そんな日本文化の大切さを見直すのが、この会の主旨です」



◀ 活動報告を行った西村運営委員長は、約3万7千人に達した推進会議の会員数について「引き続き5万人を目標に運動を続ける」と述べたほか、「自治体で制定された乾杯条例制定の殆どが議員提案であり、議会の活性化にも役立っている」などと説明。



石毛代表から感謝状を受ける松崎市長

◀ 運動に顕著な貢献のあった団体として、「食のまちづくり条例」(2001年)制定以来、食と酒を関連させた活動を続ける福井県小浜市に感謝状を贈呈。
「小浜市には豊かな湧水と田園があり、若者による酒造りプロジェクトも行われている」と松崎市長が謝辞を述べました。



都合で欠席した中根さんに代わり入賞者代表で山口秀一氏が授与



◀ 第5回「フォトコンテスト」で大賞を受賞したのは、中根英治(埼玉県)さんの「一斉乾杯」。笠間稲荷神社での乾杯イベントの様態を捉えたナイスショット。

★フォーラム★「清酒の発見」を巡り、興味津々のパネル討論



「『清酒の発見』～日本のかたち、日本のこころ～」をテーマとしたフォーラムでは、民俗学者の神崎宣武氏をコーディネーターに、中世から続く菩提酛仕込みで知られる奈良県の菩提山正暦寺住職の大原弘信氏、自ら酒場を経営したこともある武庫川女子大学名誉教授の高田公理氏、菩提酛をベースに新たな酒造りに挑戦する株式会社本店社氏の辻麻衣子氏が興味津々のトークを展開（各氏の発言のポイントは下記のとおり）。

討論の後には、浅草観光振袖学院の「振袖さん」が日本舞踊を披露し、参加者は艶やかな舞い姿にうっとりで見入っていました。



江戸文化の粋を伝えるお座敷芸。まさに酒席の華。



神崎宣武氏 ◀ 🍊

「伊丹諸白という言葉があるように、江戸の文献では伊丹が清酒の発祥とされているが、酒造りを始めたのは奈良の正暦寺のほうが早い。ただ、正暦寺の酒が清酒だったとは思えないので、おそらく清酒については、伊丹が先に進めたということではないか」

🌻 ▶ 大原弘信氏

「正暦寺には15世紀に既に酒を売っていたという記録がある。蒸し米と水と麴に空中の乳酸菌、酵母菌が入って菩提酛はできたが、さらに発酵を途中で止めて段仕込みをする技術を発見したことで、確実に大量に酒を造ることができるようになった」



🍃 ▶ 高田公理氏

「日本人は、パスツールが近代微生物学を確立する500年も前に、酵母菌など全く知らぬまま低温殺菌法を行っていた。朝顔や菊の交配も、メンデルの法則の発見（1866年）よりずっと早い。すべて経験的技術であり、それが日本の文化の姿だと思う」

🍁 ▶ 辻麻衣子氏

「酒屋の娘に生まれたのが、初めて酒に魅せられたのは、大学の冬休みに一週間ほど蔵に入った時。それ以来、生涯の仕事にしようと思った。菩提酛を使った酒造りは私のライフワークで、毎日が試行錯誤だが、これこそ酒造りの原点だと思っている」



★ 乾杯 ★ 懇親パーティ★「日本酒の日」の訪れと「全国一斉乾杯」の成功を祝う



20時30分、シンガポールから国際親善乾杯の映像が届いたのに合わせて、この夜2度目の乾杯(壇上は佐浦運営委員)

19時10分、一日の掉尾を飾る懇親パーティの開幕。まずは、石毛代表以下100人委員会のメンバーによる鏡開きが行われた後、兵庫県と佐賀県両会場のネット映像が流れる中、いよいよ19時30分の全国一斉乾杯に向けてカウントダウンのスタート。参加者は「3、2、1」の掛け声とともに、高らかに酒杯を掲げ(1頁および右の写真)、「日本酒の日」の訪れと、初の試みとなった「全国一斉乾杯」の成功を祝い合いました。

この後、シンガポールとの国際親善乾杯。参加者は全国各地の日本酒と豪華料理を味わいながら、歓談のひと時を過ごしました。



19時30分の全国一斉乾杯。この瞬間、国内外4万7千個の酒杯が高々と掲げられた!



供された日本酒は171銘柄。酒も料理も極上尽くし



会場中央に設けられた日本酒サービスコーナー



全国かまぼこ連合会



全国本漬物協同組合連合会



全国珍珠商工業協同組合連合会



静岡県茶商工業協同組合

協賛出展した関連業界4団体のブースも大にぎわい



兵庫県からは、姫路城をバッグに日本酒で乾杯。

中央会・篠原会長の中締めで、この夜三度目の乾杯。「日本酒で乾杯を、日本の新しい文化に育てよう」



全 国 一 斉 乾 杯 の 夜 に 集 う



2015.10.1
MEIJI KINENKAN

日本酒で

